

S h i p
シップ

第14号
2023.12

PICK UP 企業
中部食糧株式会社

目次

- Pick up 企業／会社概要
- 技能実習生についてお聞きしました
- 新制度有識者会議最終報告書
- フレンドシップ協同組合 スタッフ紹介

会社についてお聞かせください！

会社の事業案内



業務管理本部 業務管理部
副部長
立川 博基



製造本部 製造販売部
兼開発担当 兼品質管理担当
Food Sales Engineer
谷 雄介

当社は1963年に米穀業として始まりました。社会や人々の暮らしが変化していく中で、私たちも変化を受け入れ、ニーズに合わせた商品の提供を行っています。

現在、メインとなるのは食品卸業であり

業務用食材を幅広く取り扱っています。「機能なき所に利益なし」という思いから、自社で配送（物流）、製造など独自性を持たせてきました。これまで3つの機能として、物流機能（365日配送）、メーカー機能（自社ブランド開発）、工場機能（精米・炊飯・鶏肉加工）が、主軸となる食品卸業での発展を支えてきました。取引先は、大手スーパー、外食事業、事業所給食などになります。製造に関してはお客様の要望に合わせて白飯・酢飯・鶏肉加工を行っています。幅広く対応ができるように、製造も行う卸売業であることを強みに、ゼロイチからの商品開発で喜ばれる商品作りをすることに力を入れています。

ライスセンターはどんな役割をしていますか？

ライスセンターは、グループ全体の生産拠点となっています。敷地内には、精米工場・炊飯工場・鶏肉加工工場があります。お客様のニーズに合わせて白飯、酢飯などを製造して各営業所から得意先様へと運ばれていきます。お米の品質はもちろん、炊飯工場では「立体構造ガス式自動炊飯機」で、ふっくらと艶のある炊き上がりにこだわっています。衛生面に優れたコンテナを使い、金属探知機、X線検査機を使用して異物混入を防いでいます。そして、商品開発にも力を入れています。取引先からの提案、自社でのアイデアを形にするなどメーカーとしての役割を担っているのも、弊社の特徴です。



他社にはない強みを教えてください。

強みとして挙げられるのは、安心・安全な製造、食材のお届けができることです。

当社は、食品卸業以外にもメーカー機能、工場機能、物流機能を合わせ持っているのも、買い付けから納品までに当社の社員が携わっています。同じ会社の社員同士ですから、価値観や考え方を共有できているので一貫性がありますし、何よりお互いを知っているので信頼できます。

これは社内だけでなく、取引先の方にも同じだと考えています。顔が見える関係性であることは信頼にもつながり、製造・納品だけでなく商品開発など、お客様からのご提案もいただくことができます。



今後の展望について聞かせてください。

私たちの事業は、取引先から消費者の方々へ届き、日々の食を支えていると自負しています。不安定な情勢や状況が続いていますが、どんな時でも常に供給できる状態でありたいと考えています。

そんな思いから、今後、力を入れていきたいことは二つあります。一つは、製造です。現在、納品しているエリアは東海3県以外に、関東や北陸にも広がっています。取引先に喜ばれる商品をお届けするためには、まだ不十分なところもあるので、十分な体制を整えたいです。

もう一つは、マザーセンターの配備です。これまで、さまざまなリクエストに応えるために配達体制を整えてきましたが、さらに効率よく配送ができるように、品質を維持したままお届けできるようにしたいと思います。



技能実習生・特定技能生について お聞きしました。

技能実習生・特定技能生の人数：16人 受け入れの国：ベトナム・ミャンマー

実習生の受け入れ状況と仕事について 教えてください。

当社では、特定技能外国人が12人、技能実習生が4人います。男女比では9割が女性です。20代前半を希望していることもあり、元気で明るい人が多いです。国籍はベトナム、ミャンマーです。出身国の違いで困っていることは特にありません。

仕事は鶏肉加工工場にて、味付けやパック詰めなどを行っています。現場では、真摯に真面目に取り組んでくれており、仕事は安心して任せられるほどです。また、食品を扱うので衛生面や工場内でのルールは、繰り返し伝えていき覚えてもらうようにしています。

実習生の印象はいかがですか？

私たちより積極的に話しかけてくれます。分からないことを質問してくれたり、日常の出来事など、いろんなことを話してくれます。日本人の社員の方が、言葉が違うことで「伝わるかな？」と躊躇しているかもしれません。以前には、帰国する実習生の送別会にも声をかけてくれたので、顔を出したことがあります。最近の実習生の特徴としては、職場以外でのコミュニティがあることです。日曜礼拝や同郷の人たちとのコミュニティがあることで、情報共有をしたり、仕事以外の話ができることでリフレッシュできているようです。仕事においては「一生懸命働きたい」という思いが強いようです。就労条件内で可能な限り、希望には応えてあげたいと思います。



一緒に仕事をする上で 大事にしていることはありますか？

大事にしていることは、業務の指導内容や注意点などを繰り返し伝えることです。言葉の壁や自己の評価を気にしてなのか、理解していなくても「分かりました」と返事をしてしまう傾向があります。

現場に入れば、国籍も立場も関係ありません。全員が同じように働いています。分からない人がいることはトラブルの要因にもなります。お互いのためにも、くだいと思われたとしても大事にしています。それでも困った時には、当社では同郷の先輩に指導をお願いしたり、フレンドシップの方に通訳をお願いしています。一緒に働くからこそ、不安なことは早く解消してあげたいです。



制度など、今後期待していることを 聞かせてください。

フレンドシップをお願いするようになって2年ほどになります。働くことに意欲のある人たちが集まっているので、安心して任せられます。

話によると、日本人の中には出稼ぎと勘違いしている人もいますが、当社では対等であること、一緒に働く仲間という思いで接することを大切にしています。制度の廃止、見直しという声も聞こえてきますが、現場では人材育成という意味でも長く働いてくれる人が増えることを願うばかりです。

今後、可能であれば、できる仕事の幅を広げてもらえると助かりますね。



フレンドシップ協同組合

技能実習制度及び特定技能制度の在り方に関する 有識者会議最終報告書

見直しに当たっての基本的な考え方

(1) 見直しに当たっての視点

現在、技能実習制度及び特定技能制度を取り巻く状況として、国内において、特に地方や中小零細企業を中心に人手不足が深刻化し、外国人が日本の経済社会の担い手となっているという実情がある。国際的な人材獲得競争が激しさを増している中では、日本は、外国人材の確保について正面から検討すべき段階に来ている。

他方で、現行の技能実習制度については、人材育成等の観点から原則として転籍ができないことや監理団体による監理・支援が十分でない場合があることなどが、人権侵害や法違反の背景・原因となっている旨指摘されている。両制度を見直すに当たっては、国際的にも理解が得られ、日本が外国人材に選ばれる国になるよう、3つの視点（ビジョン）すなわち

- ① 外国人の人権が保護され、労働者としての権利性を高めること
 - ② 外国人がキャリアアップしつつ活躍できる分かりやすい仕組みをすること
 - ③ 全ての人々が安全安心に暮らすことができる外国人との共生社会の実現に資するものとする
- ことに重点を置き、両制度を見直すこととした。

(2) 見直しの4つの方向性

技能実習制度と特定技能制度の在り方の見直しは、次の4つの方向性に沿って行うものとし、第3のとおり提言するものとする。

- ① 技能実習制度を、人材確保と人材育成を目的とする新たな制度とするなど実態に即した見直しとすること
- ② 外国人材に日本が選ばれるよう、技能・知識を段階的に向上させた上でその結果を客観的に確認できる仕組みを設けることによりキャリアパスを明確化し、新たな制度から特定技能制度へ円滑な移行を図ること
- ③ 外国人の人権保護の観点から、一定の要件の下で本人の意向による転籍を認めるとともに、監理団体登録支援機関・受入れ機関の要件厳格化や関係機関の役割の明確化等の措置を講じること
- ④ 外国人材の日本語能力が段階的に向上する仕組みを設けることなどにより、外国人材の受入れ環境を整備する取組と相俟って、外国人との共生社会の実現を目指すこと

(3) 留意事項

技能実習制度と特定技能制度の在り方を見直すに当たっては、以下の2つの点に留意する必要がある。

① 現行制度の利用者等への配慮

現行の技能実習制度・特定技能制度は、技能実習生・特定技能外国人、監理団体、登録支援機関、受入れ機関（実習実施者・特定技能所属機関）等の多くの利用者等がいることから、その見直しによりこれらの者に無用な混乱や問題が生じないよう、また、不当な不利益や悪影響を被る者が生じないようにきめ細やかな配慮をすること

② 地方や中小零細企業への配慮

上記1のとおり、国内の人手不足は、とりわけ地方や中小零細企業において深刻となっている。今般の見直しにより、新たな制度及び特定技能制度は、いずれも人材確保を目的とするものとすることから、地方や中小零細企業においても人材確保が図られるように配慮すること

NGUYEN THI HUYEN

グエン ティ フェン

- 出身国／ベトナム
- 部署／ベトナム課
- フレンドシップに入って
どのくらい／約2年

□仕事内容

海外からの技能実習生、受け入れ先企業様をサポートしています。受け入れ先企業や寮などに訪問し、技能実習生と企業に仕事や生活などに関するヒアリング・アドバイスを通じて、より良い実習となるようフォローします。

主に海外技能実習生・特定技能生の在留資格に関わる申請書類、技能実習生の生活指導・サポート、受け入れ先企業への訪問、トラブル時の対応などの仕事です。

□趣味

カフェ巡りです。高い天井と白い壁が解放感を与えてくれる英国風カフェなど、その地域にしかないカフェを選んで巡るのです。それだけで平凡な休日が、優雅なホリデイに早変わりです。

□フレンドシップで学んだこと

様々なことがあります。ほとんどのことが初心者という状態で入社しました。初めのころは、早く慣れなければならないと焦る気持ちもありいつも緊張していましたが、皆さんの丁寧な指導や何気ない会話のおかげで職場の雰囲気には慣れてきました。フレンドシップでの仕事を通じて、色々な受入企業の環境や状況の変化に対応することで柔軟性を持ち、前より成長できたと思います。また、フレンドシップではスタッフそれぞれが自身の役割があります。どんなことでも自らの仕事に対して責任を持ち、組合の成果を高める認識しています。そして、各国のスタッフが協力して仕事を進め、チームワークを築き、スタッフ同士の信頼関係を構築し、効果的なコミュニケーションや意思決定を行うことができるようになったなと思っています。

この仕事を始めてから、自分の余裕も減りましたが、それあつてのやりがいも見つけました。それは実習生たちの人権や労働条件を守り、社会的な公正や人道的な価値を実現できることです。そして、いつもフレンドシップの上司たち、同僚たちに愛され、毎日楽しく仕事をやっています。

□これから挑戦してみたいこと

仕事面：

実習生と受け入れ企業の双方がスムーズに技能の習得・習熟・熟達活動を進められるように自分の知識、日本語能力などをもっと高めていきたいと思っています。

プライベート：

海外旅行が大好きですので、色々な国に旅行できるようにお金を貯金しています。今度フランスに行きたいです。





組合理念 世の為・人の為 人は石垣 人は城

フレンドシップ協同組合

フレンドシップ協同組合は「一人は万人の為に、万人は一人の為に」の精神の下、異業種間の総合扶助を目的に設立されました。企業であれ組合であれ、何のために組織を運営していくかという理念が必要です。その理念として「世の中の為」になる事業である事、「人の為」になる事業である事を掲げました。また、組織が大きくなるにつれ、どんなに素晴らしい理想があっても、どんなに立派な施設に入っても実行するのは人との考えが増すばかりです。人の大切さを自覚し、武田信玄公の教えに習って「人は石垣 人は城」をも併せて総合理念として掲げました。クレジットカードなどに永久不滅ポイントというのがありますが、この事業も永久不滅に継続させていきたい思いです。



〒460-0008

名古屋市中区栄三丁目11番31号ガラスシティ栄5F

TEL: 052-262-3500 (9:00 ~ 18:00)

FAX: 052-262-3501

URL: <https://friendship.or.jp>